

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 12 日作成)

| | | | |
|------------------------------|--|--------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名 | 固体音小委員会 | | 主 査 名：平松友孝 就任年月：2005 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学本委員会 (音環境運営委員会) | | 委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大鶴徹 |
| 設 置 期 間 | 2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>・床衝撃音の問題は、住宅性能評価・表示制度の評価項目にも挙げられ、一般消費者の関心も高く、各機関による研究も盛んに行われている分野であるが、建物の性能向上や住まい方の違いなどにより、測定法・評価法の見直しが必要になっている。そこで、本委員会では、床衝撃音問題を解決するために、床衝撃音に関する一連の検討を実施する。</p> <p>2005,2006 年度</p> <p>・走り回り等により生じる各種床衝撃音と、JIS 標準衝撃源等の対応性についての聴感評価実験を実施した。また、ボールに関する既往研究のレビュー、測定事例の収集を行った。これらから、JIS A 1418-2:2000 に規定されるボールの普及可能性についての検討を行った。</p> <p>・2005 年 7 月にシンポジウム「床衝撃音の今後を考える」を開催。</p> <p>・2005 年大会で O.S.「床衝撃音の現状と今後の課題」を実施。</p> <p>・2007 年 3 月にシンポジウム「重量床衝撃音の標準衝撃源」を開催。</p> <p>2007 年度</p> <p>・走り回り等により生じる各種床衝撃音と、JIS 標準衝撃源による床衝撃音の収録を 6 箇所の建物において実施した。</p> <p>2008 年度</p> <p>・2007 年度収録した床衝撃音を基に評価に関わる聴感評価実験を実施した。</p> <p>・評価実験等からボールを衝撃音とした場合の評価方法に関して検討を行った。</p> <p>・2009 年 3 月 19 日にシンポジウムを開催した。</p> | | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：有り 平松友孝(主査：大成建設)、中澤真司(幹事：鉄建建設)、稲留康一(奥村組)、井上勝夫(日大理工)、岩本毅(三井住友建設)、漆戸雄(フジタ)、上明戸昇(飛鳥建設)、河原塚透(大成建設)、田中学(日総試)、中森俊介(小林理研)、濱田幸雄(日大工)、平光厚雄(建研)、藤橋克己(前田建設)、松岡明彦(戸田建設)、矢入幹記(鹿島建設) | | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 設備機器に伴う固体音検討 WG 近年問題となっている設備機器固体音問題に関して検討を行った。各種固体音の対策方法を会員が使用できるような資料としてのまとめを行った。 | | |
| 2008 年度予算 | 44,040 円 | ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス： | |

| 項 目 | 自己評価 |
|-------------------------------|---|
| 委員会開催数 | 9 回(年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 1.(名称)床衝撃音の測定・評価法 参加者数 80 名 (資料名)床衝撃音の測定・評価法 |

| | |
|--------------------------------|---|
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1 .当初の計画通り実施できた。最終目標であるボールを衝撃源とした重量床衝撃音遮断性能の評価方法の考え方を構築できた。 |
| 委員会活動の問題点・課題 | 1 .床衝撃音に関する聴感評価実験を実施したが、手弁当での実施であり、時間、費用共に委員に対する負担が大きい。 |

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

| | |
|--|---|
| <p>総合評価 (4段階評価)</p> | <p>A</p> |
| <p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p> | <p>床衝撃音遮断性能の測定方法が最初に JIS 化された当時とは異なり、近年では建物の性能が向上し、また住まい方が変化したことなどにより、測定法・評価法の見直しが必要になっている。その中で、JIS A 1418 に代わり JIS A 1418-2「建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法 - 第 2 部：重量衝撃源による方法」が 2000 年に制定され、重量衝撃源として新たに衝撃力特性(2)を持つゴムボールが追加された。しかし、この衝撃源を用いた場合の床衝撃音遮断性能の評価方法が規定されていないために、建物の性能を評価する実務には採用されていないのが現状である。そこで、当小委員会では、床衝撃音の測定法・評価法に関して継続的な検討を実施してきた結果、ゴムボールを重量衝撃源とした場合の床衝撃音遮断性能の評価方法の考え方を構築した。この結果は来年度以降の小委員会においてさらなる検討が加えられ、評価方法として提案される予定である。これにより、ゴムボールによる測定・評価法が普及し、建物の適正な性能評価に寄与できるものと判断される。</p> |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。